

2018年11月14日、旭川市内で北海道建設部による「建設産業女性活躍推進セミナー」が開催されました。建設企業等の管理職及び人事・労務担当者、女性の活躍推進に興味ある方などを対象に建設産業に関する講演、事例紹介、女性就業者へのアンケートを基にしたパネルディスカッションが行われましたので、新田和代氏（株）ケンズプロ代表取締役）の講演を中心に紹介します。

クローズアップ

「建設産業女性活躍推進セミナー」 働きやすい職場づくり



講演「女性が働きやすい建設産業のために」

新田氏は、建設産業では、就業者がなかなか集まらない中で、その対策の一つとして女性の活躍が期待されている現状から話をはじめました。女性のキャリアは様々な分岐点があり、それを生涯の各段階での役割分担として考えると、企業では多様な人材のニーズに柔軟に対応していくことができるといいます。そのためには、トップからの意識づくり、社内の就労制度の周知、そして実行が重要です。これが働き方改革に必要不可欠で、決して育児中の女性支援だけではなく、今後、介護などすべての人が関わっていくこととなります。

建設産業にはまだ男性社会のイメージがあります。女性イコール雑用仕事という考え方は古い価値観です。今は女性が活躍することにより、女性視点での提案によって取引が拡大し、取引先や顧客また求職者に対するイメージも良くなるなど、社内全体の活性化に

つながってきています。

また、育児や介護中の従業員を支援している人を評価し、思いやりとお互い様意識を持つことが大事です。「女性は」などと一くりにしないで、一人ひとりのニーズと向き合うことが大切とのことでした。

女性就業者のアンケートに見る求められる職場とは

パネルディスカッションでは、実際に子育てと仕事を両立している女性達が意見を交わしました。特に印象に残ったのは、「育児をしていると子ども優先になってしまい、技術者としての向上ができない」「休暇を取得する時など、どう思われるかと常に自分のキャリア形成について不安と迷いがある。それをハンディだと思わせない環境づくりのために、日頃から協力体制を話し合うのが大切」「家庭でも話し合い協力していくことも必要」といった、アンケートでの回答や意見などです。家族に自分の仕事を見せるのも、理解してもらえるきっかけになるそうです。子どもに働く姿を見せると、将来の仕事の選択肢の一つになり、人材確保にもつながるかもしれません。さらに、オフィス環境など物理的条件（現場での女性用トイレ・更衣室・分煙化）を改善していくのも大事とのことでした。

参加者39名のうち8割くらいが男性でした。このセミナーを通じて今後、建設産業全体に、働き方の選択肢が多い職場づくりを期待したいと思います。